

特集 2013年注目の新素材・注目知見

新製品『サルバチア™』講演会に業界関係者ら200人
オメガ3含有『サルバチア』、普及に注力

研光通商

研光通商(株) (東京都千代田区) は、オメガ3系脂肪酸の一種 α -リノレン酸(ALA)を含む南米産植物の種子『サルバチア』の展開に力を入れる。先月24日には発売を記念した無料講演会を開催。業界関係者ら200人が集まった。

『サルバチア』はアルゼンチン産の植物・チア(Salbis hispanica)を品種改良した植物の種子。水に入れると14倍の水を吸収してゼリー状になるほか、必須脂肪酸の α -リノレン酸を豊富に含むのが特長。北米地域では機能性食品として流通している。同社ではこのほど、10g分包のスティックタイプ『サルバチア分包』を上市。携帯のしやすさ、手軽さなどを訴求する。同品は、水に入れると水分を多く含むことから、(社)日本ウォーキング協会公認商品にもなっている。

先月24日に行われた「新発売『サルバチア™』記念講演会」では、同志社大学大学院教授・米井嘉一氏が糖化ストレスについて、またカナダ・トロント大学教授のV.Vuksan氏がサルバチア™の健康効果への可能性について講演した。

トロント大のVuksan教授は、サルバチア™の「食後血糖値を抑える力、満腹感



講演会には200人超が集まった

を得られる力」について、ヒト試験結果を交えて解説。「米国では多くのメディアで『世界で最もパワーのある種子』とも紹介されており、2007年以降急激に市場が拡大している」と紹介した。ヒト試験は健常者を対象としたもの、Ⅱ型糖尿病患者を対象としたものなどを紹介した。

長期間臨床試験では、20人のⅡ型糖尿病患者をサルバチア摂取、プラセボ摂取の2群に分け、無作為化一重盲検クロスオーバー比較試験を実施し、12週間以上のHbA1c低下、血圧低下、炎症因子(CRP)の低下、血液凝固の改善、炭水化物食品のGI低下を確認。一方副作用は認めなかった。またⅡ型糖尿病患者58名を対象とした試験では、体重の減少、HbA1cの改善、アディポネクチン増加などを認めた。